

今春の新卒採用17社増

本社調べ 来春計画は微増見込み

日刊建設工業新聞社が主要ゼネコン35社を対象に行った人材採用アンケートによると、今春入社予定の新卒社員の見込みは2022年と比較して123人増の計3898人となる見通しだ。技術系が全体の83%を占める。採用の計画と実績を比較した充足率は下降傾向にあり、予定数を満たした社は10社にとどまった。24年春入社の採用活動は2月時点で計画を回答した32社のうち、18社が23年度計画より増やす予定。学生の進路が多様化する中、各社はあの手この手で優秀な人材の確保を狙う。

アンケートは1月中旬から3月中旬にかけて実施した。今春の採用状況を見ると、23年4月の採用数が前年実績に比べ増えたのは17社だった。達成度を示す充足率は、23年採用の当初目標を回答した34社のうち24社が100%を下回り、採用活動に苦戦している状況がうかがえる。「官庁を含む多様な業界との競争が激しくなった」（大成建設）、「売り手市場が続く、建設業を目指す優秀な人材の確保が難しい」（東急建設）といった意見が目立った。24年春の採用計画は32社が回答。総数は4043人で技術系が83%を占め、総数は23年当初計画に比べ微増にとどまる見通しだ。コロナ禍の沈静化に伴い、複数社が対面での面接を再開した。同時に「対人での人柄を見たいが、就活生にとって来社は負担」（長谷工コーポレーション）との意見もあり、オンライン方式との併用が続くようだ。アンケートでは多くの企業が人材獲得競争の激化を実感し、母集団の形成が難しいと答えた。各社はSNS（インターネット交流サイト）での情報発信やインターシップ（就業体験）拡充に加え、「ターゲット校の最寄り駅に広告を掲示する」（奥村組）など自社の認知度向上にも知恵を絞る。清水建設や大成建設は、多様な人材を求めて22年度から新卒採用の通年化に踏み切った。

ゼネコン各社の人材採用状況（大学・大学院卒、高卒・高専卒などを含む総数）

企業名	2023年度		2024年度(予定)	
	総数	(計画)	総数	技術系
鹿島	355	(298)	266	(238)
大林組	352	(374)	298	(324)
清水建設	331	(360)	279	(303)
大成建設	318	(275)	270	(225)
竹中工務店	211	(200)	177	(163)
五洋建設	192	(200)	170	(180)
高松建設	145	(156)	90	(94)
戸田建設	139	(146)	109	(128)
長谷工コーポレーション	136	(138)	93	(93)
奥村組	116	(120)	94	(96)
西松建設	114	(125)	102	(112)
前田建設	111	(107)	95	(89)
熊谷組	110	(124)	85	(101)
三井住友建設	109	(133)	89	(115)
フジタ	106	(100)	91	(88)
東急建設	96	(126)	84	(112)
鴻池組	90	(102)	81	(92)
東亜建設工業	88	(70)	78	(65)
東洋建設	75	(73)	67	(62)
鉄建建設	74	(83)	64	(73)
安藤ハザマ	70	(-)	61	(-)
東鉄工業	56	(79)	52	(75)
大豊建設	54	(50)	46	(45)
浅沼組	49	(55)	44	(50)
青木あすなろ建設	48	(45)	43	(40)
飛鳥建設	45	(60)	40	(57)
ピーエス三菱	40	(40)	36	(35)
日本国土開発	40	(56)	35	(53)
佐藤工業	40	(63)	31	(52)
大日本土木	38	(50)	34	(44)
竹中土木	38	(40)	32	(35)
若築建設	37	(45)	31	(40)
大本組	28	(40)	23	(32)
松井建設	28	(30)	23	(25)
ナカノフード建設	19	(35)	17	(32)

※2023年4月新卒採用総数順。カッコ内は前年度比。「-」は未定または未回答。

内定の辞退を防ぐフォローなど採用活動が長期化するケースもあり、中堅ゼネコンは「マンパワー不足」や「時間やコストの増加」などを課題に挙げた。

